

目 次

第1章 研究の概要	1
1. 研究の趣旨	1
2. 研究の枠組み	1
3. 研究の経過	1
4. 本報告書の構成	2
第2章 STA とは何か その背景と実際	落合俊郎 5
1. 初期の方法	5
2. 類似した支援方法のレビュー	5
3. STA のねらいと実際	6
第3章 実践事例	
1. 自閉児の表出がもたらした驚異とその問題点をめぐって	江副 新 11
2. 音声言語はないが STA と FC によってコミュニケーションを行う 定時制高校一年 K の事例	落合俊郎, 伊澤絹子 21
3. 重度・重複障害児といわれた子どもへの STA 適用事例	29
第4章 STA の意義 その理論的考察	
1. 表出援助法としての STA の意義	37
(1) STA の結果としての事実はなぜみられるのか	37
突然「書く, 描く」という事実を考える	37
「触れる」こととの観点から	滝坂信一 39
身体における対象化の観点から	鳴海宏司 47
動作と構造との関連から	笹本 健 53
視覚的認識の観点から	千田耕基 61
触知覚の観点から	大内 進 69
認知の観点から	山下皓三 77
行動分析(行動福祉)の観点から	望月 昭 81
表出援助のミステリーと現象学的身体論	河野哲也 95
STA の遭遇する問題点	
この現象は本人の意図と考えられるか Autorship の観点から ..	松下高広 101
(2) STA の示唆すること	
「評価すること」の意味の問い直し	
人と人との関係における自己表現のもつ重要性	飯島 勤 115
2. STA の結果としての事実を説明するもの	
「表現」; 音楽, 描画との関連	土野研治 121
脳性まひ児のコミュニケーションエイド利用における表出援助法の適用	福島 勇 129
重複障害児の表出援助に関する指導実践	
対象化の観点から排泄・身振りの表出を考える	岩田克彦 139
「食事」等の ADL の自立 方法論の観点から	土野研治 147
第5章 研究の課題と今後のまとめ	155